

石岡 あづみ様

石岡先生には、鈴鹿高専で学生として、またそれ以上に山岳部員として昭和50年前後に大変お世話になった宮本でございます。

先日は晩年愛飲されたという、越後の銘酒をご丁寧に郵送して頂き、誠にありがとうございました。ありがたく心して頂きます。

石岡先生の告別式に参列時は、自分のまさに青春の一時期を先生や素晴らしい山の仲間と過ごせたなつかしい思い出と、もう二度と先生とはお話できない悲しさ、悔しさで、ただただ恥ずかしげもなく涙にくれておりました。

石岡先生や後を追うように、その約2週間後に逝ってしまわれた笠井先生らとご一緒させて頂いた学生時代の忘れられない大台ヶ原山行。

鈴鹿高専キャンパスでお手伝いさせて頂いた「ナイロンザイルの公開実験」先生の生き方、山人生に刺激され追いかけるように登った前穂高東壁や屏風岩中央壁等、穂高に囲まれて過ごした日々を、あの日しみじみと思い出しておりました。

あづみさんはお忘れでしょうけど、小生や鈴鹿高専の山仲間が石岡家に押しかけたことがありました。

その時のあづみさんの「怪獣のたまご」とかおっしゃった手料理やあづみさんのギターで「夢の中へ」か何かをみんなで歌ったことが何故か今でもはっきり覚えていて、告別式でご挨拶されていたあづみさんとあの時がラップしながら、お話されていた父娘の情景が手にとるように胸にしみておりました。

石岡先生には、昭和56年の結婚式にも来て頂きました。いろいろお世話になりながら、ずっと今まで勤務地が遠方で、なかなかお会いも出来ず、何の恩返しも出来ないままでした。

それが今年の5月に急に四日市に転勤となり、いつでもお会い出来ると思った矢先の悲報でした。

告別式の日、先生の「屏風岩登攀記」をむさぼるように読み返しておりました。

石岡繁雄先生は私にとって生涯最高の恩師でした。
心からご冥福をお祈りします。

平成18年10月3日

宮本 仁



昭和38年3月11日

三重県山岳連盟主催でナイロンザイルが鋭角の岩角やエッジに簡単に切れてしまうのを証明する公開実験が鈴鹿高専で行われました。この写真は当時の様子を写したものです。

